

鼎談

東北・仙台的観光復興に向けて

平泉の世界文化遺産登録を

東北観光

の起爆剤に

東日本大震災により東北、日本経済は大きな打撃を受け、大変厳しい状況が続いています。

各地で復興に向けた動きが本格化する中、昨年六月に平泉の文化遺産が世界遺産登録を果たし、東北復興への一筋の光となりました。また若手県では本年四月から六月「いわてデザインেশيونキャンペーン」(以下DC)が開催されており、観光PRや誘客に取り組んでいます。さらに五月には二回目となる「東北六魂祭」が盛岡市で開催されることになり、東北においては「東北観光博」、平成二十五年に仙台・宮城DCが開催されるなど、観光を切り口にした盛り上がりが見込まれます。

そこで平泉の世界文化遺産登録を契機に、交流人口の拡大、仙台・宮城および東北全体の今後の観光復興・地域活性化について、平泉町長菅原正義氏をはじめ、観光の専門家である志賀秀一氏、紺野純一氏の三者によって議論を深めていただく鼎談を、二月二十九日に文化観光部会(中村兼久部会長)が開催しました。



岩手県平泉町長  
菅原 正義 氏



(株)東北地域環境研究室  
代表取締役  
志賀 秀一 氏



仙台商工会議所文化観光部会 副部長  
仙台ターミナルビル(株)常務取締役  
ホテルメトロポリタン仙台 総支配人  
紺野 純一 氏





## 東北の世界遺産として 平泉を知り、活用しよう

**紺野** 昨年三月十一日に発生した東日本大震災。そしてその後の混乱の中、六月に平泉の文化遺産が世界遺産に登録されたわけですが、まず菅原町長、世界遺産に認定された後の平泉の変化を教えてくださいいただけますか。

**菅原** 本来、ゴールデンウィークが集客の時期だったわけですが、三月十一日の東日本大震災後は、通常の15%まで観光客数が落ち込みました。しかし六月二十六日に登録認定が発表された直後から、たくさんの観光客にきていただき、その数は例年の二倍ほどになっています。観光ホームページへの外国からのアクセス数も二倍ほどで推移しており、世界遺産になったことで、これまでとは確実に違う見方をされていることを実感しています。

**紺野** 志賀さんは平泉が最初に世界遺産登録に名乗りをあげた時から、様々なアドバイスをされていらつしやいませが、世界遺産となった平泉についてどのようにお考えですか。

**志賀** 平泉の世界遺産登録の一報を聞き、大震災で落ち込んでいる東北に一筋の光が差し込んだと感じました。同時に、

宮城県をはじめ東北全域でこれを機に改めて平泉を理解することが大切です。各地域は平泉の影響力を意識しながら、お互いに協力していかなければならないのです。と申しますのも、例えば東北六県の人口減少問題に対して、今回の世界遺産登録を上手に使うことで補っていくような知恵を出し合うことが必要ではないかと思っています。

**紺野** 二〇〇六年に観光立国推進基本法が制定され、観光が地域づくり、あるいは交流人口促進につながるものであると位置づけられました。平泉町では現在どのような取り組みを行っていらつしやいますか。

**菅原** 一つは「語り部タクシー」です。独自の認定制度を創設し、車中で観光案内ができる乗務員を養成しています。来訪者に各観光地をていねいにガイドしながら、平泉を楽しんでいただくのが目的です。また特に力を入れているのが景観づくりで、景観条例を独自に策定し、平成十七年の一月からスタートしています。さらに屋外広告物条例もまち独自で制定していますが、京都よりも厳しいんですよ。あと三年もすれば目立つ看板がなくなるでしょう。それと同時に外国人観光客のための外国語表示も進めているところです。

**紺野** 志賀さん、平泉の地域づくりについて、地域連携という視点からどのようにお考えですか。

**志賀** 世界遺産という冠をいただいたまちは、文字通り世界から注目を浴びます。しかし、訪れる方はヘリコプターで直接平泉に降り立つわけではありませんが、成田空港や東京駅、仙台駅、高速道路などを経由してやってくるわけですから、いろいろな地域のつながりの中で平泉を考える発想が必要ではないでしょうか。また観光庁の施策で「広域観光圏」という考え方があり、岩手県の一関市、平泉町、宮城県の仙台市、気仙沼市、松島町など十一市町がメンバーとして一緒に広域観光に取り組んでいます。つまり、「行政の枠を超えた仲間」がいるのですから、お互いに仲間たちとの関係で自分のまちを考えていただきたいと思っています。

そして、平泉に対しては、仙台の機能を徹底的に使っていただきたいものです。仙台駅の二階に観光案内所がありますが、年間四十二万人の人々が訪れ、寄せられる質問のうち、直近では約二割が平泉に関するものだそうです。つまり平泉の情報発信には仙台が大きく関わっているのです。このことから他地域との協力関係で平泉を考えることが必要になってくるのだと思います。



に変わっております。

※屋外や店頭などに設置された液晶ディスプレイなどの映像表示装置

**紺野** 平成二十年に行われた仙台・宮城DCは、昭和五十三年に始まったDCの歴史の中でも一番の成功例としてとらえられています。志賀さんは前回の仙台・宮城DCの成果や、今後の課題についてどのようにお考えですか。

## 前回は超えるDCを展開し 東北への注目度を拡大

**紺野** 今年四月から、いよいよ岩手県でDCが開催されますが、平泉をPRする方法など、お考えになつていふことがあればお聞かせいただけますか。

**菅原** 今、デジタルサイネージを岩手県内のホテルに設置し、リアルタイムで平泉の状況を見ていただけるように準備を進めているところです。また盛岡にあるホテルに、平泉の歴史や観光をガイドするタッチパネルを設置しているのですが、なかなか評判がよろしいので、今後とも広く提供していこうと考えているところです。また平泉までの距離感を直感的につかんでいただくこと、これまでの「平泉まで〇キロ」という表示を、「電車で〇分」というように時間で示すよう



スが向上します。ですから来年の仙台・宮城DCでは、そのことを視野に入れ対応する必要があると思います。

**紺野** 東北には世界文化遺産に登録された平泉を中心とした観光振興や地域おこし、復興に努めるといった大きなテーマがあるという思いがあります。その中で「いわてDC」があり、来年の「仙台・宮城DC」、そのあとには秋田が控えています。また、今年三月十八日から観光庁が主体となり、「東北観光博」の大々的な展開も予定されています。それを踏まえて、「平泉をこうしていきたい」というお話をお聞かせください。

**菅原** 実は、私たちも大いに危機感を持つていふことがあります。それは文化庁が世界遺産への二〇一三年の登録をめざして、富士山と鎌倉を推薦する方向にあるということ。そうなる場合、平

泉に集まっている視線がそちらに移ってしまうかも知れないと思うと、この一年が正念場です。まずボランティアガイドの育成にも力を入れてまいります。

平泉は白河の関から青森の外が浜までの東北一帯を当時は治めていました。その意味でも皆さまに「使っていただくこと」で、さらに価値を高めていきたいと思ひます。

## 東北全体の復興を念頭に 仙台が東北の観光を牽引

**紺野** 東北の観光に欠かせないものとして、「お祭り」がありますが、東日本大震災の一年前、二〇一〇年二月に仙台商工会議所が中心になり、「東北夏祭りネットワーク」が結成されました。そして昨年七月に行われた「東北六魂祭」は、仙台、ひいては東北全体の元気を創出するような大きなイベントになったと思ひます。そこで志賀さんにお伺いしたいのですが、このネットワークの可能性について、どのようにお考えですか。

**志賀** 「東北六魂祭」や「東北夏祭りネットワーク」が牽引力となり、東北の地にたくさんの方に来ていただき、さらに各地に導いていくような役割が果たせるのではないかと思ひます。とにかく人に来てもらうことがすべての需要につながるという発想で、各地域の方々はお祭

りそのものを磨き、対応能力を高め、観光客を受け入れる体制を整え、単発で終わらせずに連続性を持たせることが大切だと思っています。

**紺野** 最後に東北全体の観光、活性化についてそれぞれの視点でのお考えをお聞かせください。

**菅原** 「東北六魂祭」を見て思いを強くしたのは、来てくださった方々の期待に沿うものを提供しなければならぬということからです。ですから、同じ観光圏、東北の仲間として、皆さんが平泉に来て「ここはこうしたい方がいい」という点があれば、ぜひご意見をいただきたいと思っています。

**志賀** 「世界遺産」という無条件で世界に通用するブランドが東北にあるのですから、東北人は本気で平泉のことを勉強する必要があります。まず、平泉を見ずして、東北を見たことにはならない。しかし東北には他にも魅力的な地域がたくさんある」といった発想です。そして仙台は「東北全体の復興」を念頭に置き、その牽引役としてさらに力を発揮していくことが必要です。

**紺野** 本日は貴重なご意見をいただきました。仙台は新幹線はもちろん、空の

便も国内八路線、海外からも一週間に十一便ほどが乗り入れています。また高速バスがこの仙台を中心に国内の主要都市に路線を持っています。まさにこの仙台がゲートウェイであり、交通の結節点です。ですから、世界ブランドになった平泉を中心としながらこの仙台が元気になることが、観光だけではなく東日本大震災の復興に大きな弾みをつけるのではないかと思っています。「地域」とか「連携」という言葉をキーワードにしながら、この仙台がゲートウェイになり、東北全体に国内外から多くのお客さまを受け入れるような取り組みをしていくことが大切だと思っています。

観光はまちが元気でなければ始まらないと常々思っています。今後、ますます仙台商工会議所が果たす役割も大きくなると思いますので、私たちも力を合わせてしっかりと取り組んでまいりましょう。



## 「東北観光博」とは

東北観光博は、東北全体を一つの博覧会場と見立てて、着地型商品の提供や「地域観光案内人」による観光情報など、統一的な情報発信をすることで、国内外からの誘客を図り、東北地域の観光復興につなげていくものです。

本年三月十八日にグランドオープン、平成二十五年三月三十一日まで開催され、観光庁と東北六県が一体となつてさまざまなイベントを実施します。

東北内に計二十八の観光ゾーンを設定。旅行者には各種観光施設や飲食店などで割り引きが受けられる「東北バスポート」が配布され、ゾーン間の回遊性向上を図るほか、各ゾーンには観光案内人が常駐する「旅のサロン」や「旅の駅」といった拠点が設けられ、観光客に地域の魅力をアピールします。

地域が主体となった取り組みを促すことで、観光資源の掘り起こしや、着地型商品の造成、観光情報提供の統一化、さらには地域間の連携等に広げ、観光を核にした持続的な取り組みが東北全体に広がることを目指します。

「こころ、  
むすぶ。」  
**東北  
観光博**



東北せんぶが博覧会場だ。

全**28**の  
ゾーンが、  
あなたを  
待つ!

